

新冠にまつわるお話しを集めた 新冠百話

第二十八話

「新冠の災害史」(要約文)

今回は、新冠で起きた主な自然災害を紹介します。

○明治十三、十四年のいなごの被害

当時、新冠の多くの土地は牧馬場(後の御料牧場)として広く軍馬を飼育していました。そのような中、あたり一面を覆い尽くす「いなご」が襲来し、牧草地や畑に多大な被害を及ぼしました。

○大正二年の冷害凶作と水害

この年は、平年より気温が相当低く、その上八月に暴風雨が襲来し、作物の発育が阻害され、未曾有の大凶作となりました。

○昭和十年の高潮災害

昭和十年九月、日高一帯に暴風警報が発令、間もなく海岸は怒涛のごとき波浪に見舞われたといえます。危険を察知した節婦の住民は、家財道具を運び、高台に避難しました。

○昭和三十年の大水害

昭和三十年七月四日、忘れもしない大水害が発生しました。新冠川は集中豪雨により増水し、鉄砲水となって流域の人家を襲いました。市街地に至っては、約七十パーセントが濁流で覆い尽くされました。二十七人もの尊い命が奪われました。

○昭和五十七年の浦河沖地震

昭和五十七年三月の浦河沖地震では、住宅破損や土木被害がありました。特に商店の商品被害が大きく、その被害額は千五十五万円にのぼりました。また、この地震により、泥火山の地割れや隆起といった現象が見られました。

○平成七年の大雨災害

平成七年八月の豪雨による被害では、国道や日高線等交通障害があつた他、学校やパークゴルフ場の被害もあり、被害額は約六億円となっております。

○平成十五年の大震災と十勝沖地震

この年の八月、台風十号が襲来し、四人もの尊い命が奪われました。浸水家屋、農業被害、土木被害、水産被害、林業被害、交通障害などの被害額は約百七十億円にも達しました。水害発生から間もないわずかに二カ月後の九月、今度は震度六弱を記録する地震が発生しました。電柱の倒壊などが見られました。

このように新冠は様々な災害を経て今日に至っています。災害は私達に大きな痛手となり、立ちふさがりますが、反対に災害の恐ろしさや防災の重要性を気付かせてくれます。



平成15年の水害で、大きく曲がった日高線の鉄橋

～夕暮れ時の交通事故防止～

- ドライバーは早めのライト点灯を
 - 歩行者は反射材の着用、明るい服装を
 - 道路の横断は信号機・横断歩道を利用しましょう
- 静内警察署

火災・救急出動状況 () かつこ内は前年同期

区分	火災件数	救急件数
9月	0件(1件)	28件(40件)
2年1～9月	1件(4件)	197件(256件)

区分	発生件数	死者	傷者
9月	0件(2件)	0人(0人)	0人(3人)
2年1～9月	1件(6件)	0人(0人)	1人(7人)

人のうごき

(9月末現在)

人口	5,396人	(前月比 - 22人)
男	2,642人	(前月比 - 10人)
女	2,754人	(前月比 - 12人)
世帯	2,744世帯	(前月比 - 11世帯)

町公式ホームページ

町公式フェイスブック

